

[別紙 2]

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 Hom Nath Chalise

本研究では、ネパール人高齢者におけるソーシャルサポートと孤独感および主観的幸福感（SWB）との関連を、サポート源に着目して検討した。また、Chhetri と Newar という、社会的地位や語族が異なるカースト/エスニシティの間において、結果の交差妥当性を検討した。対象はネパールの首都カトマンズの1地区に住む60歳以上の高齢者であり、Chhetri に属する高齢者 137 名、Newar に属する高齢者 195 名から協力を得た。ソーシャルサポートは提供したサポート（SSP）、受けたサポート（SSR）に分けて尋ねた。また、サポート内容は7つに分類し、それぞれ4つのサポート源別に授受の程度を尋ねた。本研究の結果は以下の通りである。

1. 両カースト/エスニシティとも、主要なサポート授受の相手は同居している子どもと配偶者であった。また、同居している子どもとのサポート授受では、SSR が SSP と比較して有意に高く、これは男女共にあてはまる結果であった。配偶者とのサポート授受に関しては、男性のみ、両カースト/エスニシティで有意に SSR が SSP と比較して高かった。
2. 両カースト/エスニシティにおいて、配偶者、同居している子どもからの SSR、配偶者、同居している子ども、友人と近所の人への SSP は孤独感を有意に低下させていた。両カースト/エスニシティ間での傾きの有意差はみられなかった。
3. Chhetri において SWB 生活満足度を有意に増加させていたのは、

配偶者からの SSR、配偶者、友人と近所の人への SSP であった。一方、Newar において SWB 生活満足度を有意に増加させていたのは、子ども（同居、別居ともに）との間での SSR と SSP、友人と近所の人への SSP であった。配偶者、同居している子どもからの SSR、配偶者への SSP において、両カースト/エスニシティ間の傾きの有意差がみられた。

4. Chhetri において SWB 生活安定性を有意に増加させていたのは、配偶者との間での SSR と SSP、そして友人と近所の人への SSP であった。Newar において SWB 生活安定性を有意に増加させていたのは、配偶者、同居している子ども、別居している子ども、友人と近所の人からの SSR、そして配偶者、別居している子ども、友人と近所の人への SSP であった。両カースト/エスニシティ間の傾きの有意差はみられなかった。

以上、本論文はネパール人高齢者における、サポート授受の特徴を明らかにするとともに、孤独感や主観的幸福感との関連を明らかにした。また、その結果が、Chhetri と Newar という異なるカースト/エスニシティにおいて一定の交差妥当性があることも明らかにした。ネパール人高齢者を対象にこうした検討を行った研究はこれまでにない上、異なるカースト/エスニシティ間での交差妥当性も検討しており、本研究は学術的に価値が高いと思われる。また、ネパールでは高齢化が急速に進んでおり、こうした高齢者の健康に関する研究の重要性は高まりつつある。したがって本研究は、学位の授与に値するものと考えられる。